

## IV 本会と関係団体

本会と日本工学会の関係については前にふれたが、工学会には現在50数種の団体が加盟している。これらの団体は本会と深いつながりがあり、それぞれ共催で後述の工学会大会を開催したり、いろいろな行事を行っている。学問の進歩により一部はそれぞれ専門分野への分化が行われ、土木工学関係の学協会は現在30数種あるが、一方また学問の進歩は従来考えられなかった他の部門と密接な関係を取りながら研究をすすめていかなければならない。昭和23年7月に日本学術会議法が制定されてからはこの傾向が強くなり関係団体の共催でいろいろな行事が開催されている。以下本編でこれらの関係団体と行っている行事について記述する。

### 1. 日本学術会議

科学が文化国家ないし平和国家の基礎であるという確信に立ち、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、科学の向上発達を図り行政、産業および国民生活に科学を反映浸透させることを目的とし、昭和23年7月に日本学術会議法が制定、実施されたのである。

日本学術会議は、日本学術会議法にもとづき「わが国の科学者の内外に対する代表機関」として設置された国の機関である。この使命と目的を達成するために2つの職務がある。

- 1) 科学に関する重要事項を審議してその実現を図る。
- 2) 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。また、一定の事項に関して、政府の諮問に答申し、同時に政府に勧告する権限を有している。

組織は、現在19万人の有権者によって3年ごとに行われる選挙（第1部～第7部までの各部ごとに全国区、地方区について郵便投票で実施される）で選ばれた任期3年の会員（第1期は2年）で、各部30名ずつの合計210名の会員で構成されている。

なお、土木部門（第5部）の学術会議会員で第7期から第10期までの会員は次のとおりである（第1期から第6期までの会員は50年略史を参照）。

第7期 昭和41年1月より

全国区 石原 藤次郎 平井 敦

第8期 昭和44年1月より

全国区 石原 藤次郎 平井 敦

地方区 板倉 忠三

第9期 昭和47年1月より

全国区 石原 藤次郎 国分 正胤

地方区 河上 房義 横道 英雄

第10期 昭和50年1月より

全国区 奥村 敏恵 河上 房義 米谷 栄二

また、各種の研究連絡委員会を設けそれぞれ調査研究ならびに講演会、シンポジウム等を開催している。

土木に関係のある研究連絡委員会は次のようなものがあり、本会会員の中からも委員が選出されている。

材料研究連絡委員会

溶接研究連絡委員会

力学研究連絡委員会

構造研究連絡委員会

水力学・水理学研究連絡委員会

地震工学研究連絡委員会

地球物理研究連絡委員会

安全工学研究連絡委員会

自動制御研究連絡委員会

中央選挙管理委員会

### 2. 日本学士院

学界の権威者、学術上功績顕著な科学者等を優遇するため明治12年に創設された日本学士院は、始めは帝国学士院と称し、戦後22年に日本学士院と改称した。

昭和23年に入り7月に日本学術会議法が制定され、日本学術会議が設立され、日本学術会議の中に日本学士院が置かれるようになったが、昭和31年3月24日に日本学士院法が制定されるに至り、日本学術会議から独立して新しく日本学士院が設立され現在に至っている。

土木学会会員では、故田中 豊博士（昭和24年）、故吉田徳次郎博士（昭和25年）が会員としておられたが、現在、本学会名誉会員 青木楠男氏が土木工学を代表し、日本学士院会員（昭和41年11月12日選定）として活躍している。

### 3. 文化勲章

この章は、わが国の文化の発達に関して、勲績の卓絶

なる者に対し、特に授与されるもので、昭和12年2月11日勅令第109号をもって制定（文化勲章令）された単一級の特殊勲章である。

文化勲章受章者は、昭和26年4月3日法律第125号をもって公布された文化功労者年金法の適用を受け、年金の支給を受けられる。

わが土木学会会員としては、昭和43年11月3日に鈴木雅次博士に授与されたのが初めてであった。

その後、故赤木正雄博士（昭和46年11月3日）および故内田祥三博士（昭和47年11月3日）に授与された。

#### 4. 各種の大会、講演会、シンポジウム

本会に関係の深い団体および学協会是非常に多く、学問の進歩にしたがって他の部門と密接な関係を取りながら研究を進めていく機会が増々多くなってきた。日本工学会、日本学術会議をはじめとし、本会と関係団体と共催で行われる行事が非常に多くなってきたことはその一つの現象といえよう。

歴史的にかなり古いものとしては、昭和2年からの「工学会大会」、昭和4年からの「万国工業会議」、昭和6年からの「応用力学大会（応用力学連合講演会の前身）」、昭和24年からの「土・粉体・粒体に関する連合講演会」等が挙げられるが、現在は開催されていないため、これらの詳細については「土木学会創立40周年略史」および「50周年略史」を参照されたい。

ここでは、本会が関係団体と共催で定期的に現在開催しており、またこの10年間に開催してきた各種の講演会、シンポジウム等についてふれ、その内容を以下に記述する。

なお、それぞれの行事の開催期日、場所等については、紙面の都合にて昭和40年4月～50年3月までのものを記載した。

##### (1) 応用力学連合講演会（旧称応用力学大会）

昭和6年応用力学大会が開催されてから久しく途絶えていたが、終戦後わが国が国際理論および応用力学委員会に加盟することになってから、その国内委員会として日本学術会議内に理論および応用力学研究連絡委員会が設置された。この委員会は委員長を中西不二夫氏とし、応用物理学会、造船協会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会、日本航空学会（昭和28年までは応用力学会）、日本物理学会の7学協会から、それぞれ2～3名

の委員を推薦し運営に当たっている。毎年この委員会が主催で7学協会（昭和29年から日本火災学会が加わって8学協会となる）が参加して講演会を開催している。第1回講演会は1946年パリで開かれた第6回国際応用力学会議において応用力学の進歩を促進する方法として The International Union of Theoretical and Applied Mechanics（略して IUTAM）を結成することが決議され、翌1947年にそれが International Council of Scientific Union の中の一つの Union として承認され、わが国でも IUTAM の一会員となるため日本学術会議において力学研究本邦委員会（National Committee of Theoretical and Applied Mechanics in Japan, 略して NCTAM）が設けられ、この委員会において日本国内はもちろん、国外との理論および応用力学の研究連絡のための一つとして、前記の学協会と連合して昭和26年11月3、4日東京大学において開かれた。この講演会も第1回を開催してから毎年定期的に行われており、昭和49年には第24回を教えるに至っている。

そして、昭和49年の第24回講演会は、110編の講演があり、約350名が参加し盛会を呈している。

また、日本学術会議をはじめとし共催学協会も増え、本学会を始め応用物理学会、日本機械学会、日本建築学会、日本航空宇宙学会、日本鉱業会、日本数学会、日本造船学会、日本物理学会の9学会が参画している。

本講演会ではそのたびに講演集を刊行し、発表論文は全部英文（または独、仏文）で Proceeding として広く海外へ紹介されている。

本講演会の昭和40年以降の開催期日、場所は次のとおりである。

第15回	40. 9. 7～8	東京大学
第16回	41. 10. 19～20	"
第17回	42. 10. 19～20	"
第18回	43. 11. 8～9	東京都立大学
第19回	44. 10. 3～4	東京都勤労福祉会館
第20回	45. 10. 23～24	機械振興会館
第21回	46. 10. 26～27	日本学術会議
第22回	47. 12. 5～6	"
第23回	48. 10. 30～31	"
第24回	49. 11. 12～13	"

##### (2) 材料研究連合講演会（旧称材料試験連合講演会）

工学関係で使う材料は種類も多く、その用途も多方面にわたっているが、これらの材料はそれぞれ適性な試験をもって適否の判断をされなければならないし、古くから使われている材料は同じ用途に対して種々の試験方法が提案され、まようこともあるので、材料に関する研究

者が一堂に会して研究を発表し、必要な討議を行えばその進歩に寄与することが大きい、という主旨で日本学術会議では材料試験研究連絡委員会を設け、工学関係の材料に関係のある学協会に呼びかけて開催することになったもので、第1回講演会は昭和32年10月28日、29日東京科学博物館講堂で開かれた。本会もこの主旨に賛同し、第1回には幹事学会として参加し、今年は第18回を数えるに至った。

そして、昭和49年の第18回講演会は97編の講演があり、約200名が参加し、盛会を呈している。

また、日本学術会議をはじめとし、共催学協会も増え、24学協会が参画している。なお、昭和42年に学術会議では材料研究連絡委員会と改称したため、講演会名も昭和42年より「材料研究連合講演会」と改称された。

この講演会も発表論文は印刷され海外へも紹介している。

本講演会の昭和40年以降の開催期日、場所は次のとおりである。

第9回	: 40. 9. 9 ~ 10	明治大学
第10回	: 41. 9. 8 ~ 9	京都大学
第11回	: 42. 9. 8 ~ 9	日本化学会講堂
第12回	: 43. 9. 2 ~ 3	京都大学
第13回	: 44. 9. 1 ~ 2	日本都市センター
第14回	: 45. 9. 1 ~ 2	京都府勤労会館
第15回	: 46. 9. 8 ~ 9	立教大学
第16回	: 47. 8. 25 ~ 26	大阪科学技術センター
第17回	: 48. 9. 4 ~ 5	日本学術会議
第18回	: 49. 9. 12 ~ 13	京都府立勤労会館

### (3) 構造工学シンポジウム

(旧称橋梁・構造工学研究発表会)

日本学術会議の中に橋梁・構造工学研究連絡委員会が設置されたことは委員会の項で述べたが、同研究連絡委員会、日本建築学会、および土木学会の共催をもって、昭和29年度以降、毎年一定のテーマを決めて研究発表会を開催し、橋梁・構造工学に関する研究および技術の交流を図っており、平均150名の参加があり講演概要集を刊行している。この結果を翻訳して欧文論文集を刊行し、日本の研究および技術を海外へ紹介している。なお、昭和41年4月に学術会議の研究連絡委員会が「構造研究連絡委員会」と改称され、また、研究発表会の名称も昭和49年11月の第21回から「構造工学シンポジウム」と改称した。

本シンポジウムの昭和40年以降の開催期日、場所は次のとおりである。

第12回	: 40. 11. 26	日本建築学会講堂 (17題)
第13回	: 41. 11. 25	土木図書館講堂 (14題)
第14回	: 42. 12. 1	" (16題)
第15回	: 43. 12. 13	" (20題)
第16回	: 44. 12. 5	" (17題)
第17回	: 45. 12. 4	" (14題)
第18回	: 46. 12. 3	" (23題)
第19回	: 47. 12. 1	" (21題)
第20回	: 48. 11. 13 ~ 14	" (31題)
第21回	: 49. 11. 15	" (19題)

### (4) 風に関するシンポジウム

このシンポジウムは、従来風に関する研究が各学会別に行われ横の連絡が十分行われていなかったものをこの研究の相互連絡を促進する目的で気象、農業気象、土木、建築、地理、火災の6学会の共催で昭和29年11月25日、26日東京で第1回が開催されたことに始まる。それ以来毎年一定のテーマのもとにそれぞれ研究発表を行っているが、現在は参加学会も9学会に増え、平均20題の講演と150名程度の参加のもとで開催されている。

本シンポジウムの昭和40年以降の開催期日、場所は次のとおりである。

第12回	: 40. 11. 19	気象庁講堂
第13回	: 41. 11. 18	"
第14回	: 42. 12. 8	農業技術研究所講堂
第15回	: 43. 11. 18	京都大学
第16回	: 44. 11. 25	気象庁講堂
第17回	: 45. 12. 10	"
第18回	: 46. 11. 26	"
第19回	: 47. 11. 22	"
第20回	: 48. 11. 28	"
第21回	: 49. 11. 27	"

### (5) 構造物の耐風性に関するシンポジウム

構造物の耐風性に関し気象、土木、建築、電気の各分野における研究成果と技術の交流を目的とし、従来から行われている「風に関するシンポジウム」とは別に、電気学会、土木学会、日本気象学会、日本建築学会、日本鋼構造協会の5学協会共催により、昭和45年5月8日、9日に第1回シンポジウムが開催された。本シンポジウムは2年に1回行うこととし、昭和49年12月に第3回シンポジウムを行い毎回盛会をきわめているが、第4回シンポジウムからは、日本学術会議構造研究連絡委員会耐風構造分科会が開催に参画する予定である。

本シンポジウムの今までの開催期日、場所は次のとおりである。

- 第1回：45. 5. 8～9 土木図書館講堂(37題, 300名)  
 第2回：47. 12. 4～5 気象庁講堂(33題, 200名)  
 第3回：49. 12. 5～6 " (37題, 315名)

#### (6) 日本地震工学シンポジウム

昭和35年に日本において第2回世界地震工学会議(World Conference on Earthquake Engineering, 略称 WCEE) が開催され多大の成果をおさめ、この会議を契機に地震工学への関心はいっそう高まり、国内の地震工学専攻の研究者、技術者の知識の交流、研究情報の交換をはかることを目的とし、昭和37年11月15日～17日、私学会館(東京)において第1回地震工学国内シンポジウム(1962年)を開催した。本シンポジウムは、世界地震工学会議が原則として4年ごとに開かれているためその中間において4年に1回開催することとし、土木学会、日本建築学会、地震学会、土質工学会が参画し開催した。第2回シンポジウムから「日本地震工学シンポジウム」と改称し、外国からも論文の提出および参加があり毎回盛会をきわめており、第4回は昭和50年11月に開催される予定である。

なお、昭和48年は、関東地震の50周年にあたるため、これを記念したシンポジウムを日本学術会議地震工学研究連絡委員会で発案し、前記4学会および日本機械学会の共催によって昭和48年8月31日と9月1日の2日間、ニッショーホール(東京)において「関東地震50周年記念地震工学シンポジウム」が特別に開催され、52編の論文と579名の参加があり盛会裡に終了した。日本地震工学シンポジウムの第1回からの開催期日、場所は次のとおりである。

- 第1回：37. 11. 15～17 私学会館(46題, 543名)  
 第2回：41. 10. 24～26 第一生命ホール(74題, パネル討論9題, 574名(内外国人14名))  
 第3回：45. 11. 17～20 第一生命ホール(104題, 763名(内外国人14名))

#### (7) 岩の力学国内シンポジウム

岩の力学に関する国内の研究者、技術者の知識の交流、研究情報の交流をはかることを目的とし、昭和39年11月11日～12日、毎日ホール(東京)において第1回岩の力学国内シンポジウム(1964)を開催した。

本シンポジウムは、3年に1回開催することを原則とし、土木学会、土質工学会、日本鉱業会、日本材料学会が参画し開催した。

昭和43年4月、岩の力学に関する国内の研究活動の連絡ならびに国際岩の力学会(International Society for Rock

Mechanics) との連絡をはかることを目的とし、前記4学会の協力により「岩の力学研究連合委員会」が設置された。

同連合委員会は、日本学術会議力学研究連絡委員会岩の力学分科会の業務の一環とし、その活動を行っているが、シンポジウム開催に際しては、そのつど各学会から委員を選出し、運営委員会を組織してシンポジウム運営にあたっている。

同連合委員会は、シンポジウム開催に協力するとともに「岩の力学講演会」も適宜開催しており、岩の力学の発展に寄与している。

シンポジウムおよび講演会の開催期日、場所は次のとおりである。

##### シンポジウム

- 第1回：39. 11. 11～12 毎日ホール(19題, 220名)  
 第2回：42. 11. 28～29 大和証券ホール(31題, 320名)  
 第3回：45. 11. 26～27 京都会館(37題, 200名)  
 第4回：48. 11. 27～28 第一生命ホール(29題, 330名)

##### 講演会

- 第1回 { 46. 12. 19 日本学術会議講堂(5題, 150名)  
 46. 12. 26 大阪科学技術センター(5題, 70名)  
 第2回：48. 2. 16 日本学術会議講堂(6題, 168名)

#### (8) 安全工学国内シンポジウム

最近における産業の飛躍的發展に伴い、産業界における火災、爆発、破壊、故障、障害、中毒などの各種産業災害は、健康阻害ないし生産阻害の因子として、その防止が緊要とされ、国内外のこの領域の研究連絡を行うことを目的として、昭和41年、日本学術会議安全工学研究連絡委員会が設置された。

本趣旨に基づき、電気学会、土木学会、日本化学会、日本機械学会、日本建築学会、日本鉱業会、安全工学協会の7学協会が共催で、昭和45年5月19日、20日に第1回シンポジウムが開催された。以降、毎年定期的に開催しており、平均30題の講演と200名程度の参加があり盛会をきわめている。なお、その後、共催学協会が増え、現在は13学協会が参画している。

本シンポジウムの開催期日、場所は次のとおりである。

- 第1回：45. 5. 19～20 日本学術会議講堂  
 第2回：46. 5. 27～28 "  
 第3回：47. 5. 25～26 "  
 第4回：48. 5. 24～25 "  
 第5回：49. 6. 20～21 "

#### (9) そ の 他

以上、日本工学会、日本学術会議を中心とし、土木学

会の常置委員会等と関連のある主な行事について略述したが、このほか関係機関、関係学協会等と共催、後援および協賛として定期的または不定期に行っている行事は多数あり、今後もますます増える傾向にある。これらについては、50周年略史P.51～P.52にその他の行事として、昭和29年10月～39年3月までの分は掲載してあるので参照されたい。

なお、昭和40年4月～50年3月までの分は、以下のとおりである。

**関係団体および関係学協会と共催、後援、共賛の行事**

- 40. 4.20 T.Y.Lin氏講演会(後援) 東京会館
- 40. 4.20～22 第2回理工学における同位元素研究発表会(共催) 東京大学
- 40. 6.3～4 第3回接着研究発表会(共同主催) 日本消防会館内 日消ホール
- 40.10.4～8 第4回宅地造成講習会(共催) 厚生年金会館ホール
- 40.10.18～19 災害科学に関する第2回合同総合講演会(後援) 東京大学工学部2号館
- 40.10.28～30 第14回レオロジー討論会(共催) 宮城県民会館
- 40.11.26 構造の軽量化に関するシンポジウム(共催) 土木図書館講堂
- 41. 1.24～25 第6回防災化学研究発表会(共催) 日本化学会講堂
- 41. 2.14～15 第4回原子力総合シンポジウム(共催) 神田学士会館
- 41. 3. 9～11 応用測定に関する講習会(協賛) 京都工芸繊維大学工学部
- 41. 4.19～21 第3回理工学における同位元素研究発表会(共催) 国立教育会館
- 41. 5.20 「都市再開発」講演会(共催) 大阪科学技術センター
- 41. 7.26～29 応用測定に関する講習会(協賛) 東京都立アイソトープセンター
- 41. 9. 5～9 第5回宅地造成技術講習会(共催) サンケイ会館国際ホール
- 41.10.17 「路線の計画、設計の自動化」に関する講演会(共催) 土木図書館講堂
- 41.10.25 コンクリートバイル基礎講習会(協賛) 日消ホール
- 41.10.27 コンクリートバイル基礎講習会(協賛) 関電ホール
- 41.11. 1 コンクリートバイル基礎講習会(協賛) 名古屋市公会堂
- 41.11.4～5 第3回災害科学総合シンポジウム(後援) 京大工学部土木工学教室
- 41.11.24～26 第15回レオロジー討論会(共催) 東京工業大学講堂

- 41.12. 2 第17回構造の軽量化に関するシンポジウム(共催) 土木図書館講堂
- 42. 1.26～27 高分子材料の強度に関する講習会(協賛) 大阪科学技術センター
- 42. 2. 3 シェル構造の発達についての講演会(共催) 東京商工会議所ホール
- 42. 2. 4 水文学に関するシンポジウム(後援) 土木図書館講堂
- 42. 2.14～15 第5回原子力総合シンポジウム(共催) 国立教育会館
- 42. 4.18～20 第4回理工学における同位元素研究発表会(共催) 国立教育会館
- 42. 5.10 ヘルムート・ボルヒェル氏講演会(共催) 日本建築学会会議室
- 42. 6.7～8 第5回接着研究発表会(共催) 東京工業大学講堂
- 42. 7.18～21 「金属の物理的性質」講習会(協賛) 科学技術館ホール
- 42. 8.22～25 応力測定に関する講習会(協賛) 名古屋工業大学
- 42. 8.28～29 高分子材料の強度に関する講習会(協賛) 日本化学会講堂
- 42. 8.29～31 第16回レオロジー討論会(共催) 北海道大学
- 42. 8.28～9.1 第6回宅地造成技術講習会(共催) 東京：上智大学 大阪：京都商工会議所
- 42.11.18 混相流シンポジウム(共催) 土木図書館講堂
- 42.11.23～24 第4回災害科学総合シンポジウム(後援) 宮城県民会館
- 42.11.29 第8回構造の軽量化に関するシンポジウム(共催) 土木図書館講堂
- 42.11.29 コンクリートバイル基礎講習会(協賛) 福岡天神ビル大ホール
- 43. 2.10 最近の河川災害調査に関するシンポジウム(後援) 発明会館
- 43. 2.19～20 第6回原子力総合シンポジウム(共催) 国立教育会館
- 43.4.16～5.23(9日間) コンクリート講習会(後援) 東京都, 外8市
- 43. 4.23～26 用途別鋼材のえらび方講習会(後援) 東京：日本規格協会大講堂 大阪：日本規格協会JISホール
- 43. 4.24～26 第4回理工学における同位元素研究発表会(共催) 国立教育会館
- 43. 6.24～7.24(8日間) PCくい使用に関する講習会(共催) 東京都, 外7市
- 43. 6.26～7.25(4日間) コンクリート工用樹脂に関する講習会(共催) 東京都, 外3市

- 43. 7.29～8.2 第7回宅地造成技術講習会（共催）  
東京：発明会館ホール  
大阪：府立商工会館講堂
- 43. 8.20～23 応力測定に関する講習会（協賛） 岡山大学講堂
- 43.10.29～11.12 地盤薬液注入工法講習会（共催） 東京都、外2市
- 43.11.11～12 第5回災害科学シンポジウム（後援） 国立科学博物館
- 43.11.25～27 鋼材使用による急速施工講習会（後援）  
名古屋：豊田ビルホール  
大阪：石橋ビルホール  
福岡：福岡ビルホール
- 43.11.29 第9回構造の軽量化に関するシンポジウム（共催） 土木図書館講堂
- 44. 1.25 不等質の流れのシンポジウム（共催） 土木図書館講堂
- 44. 2. 8 河川災害研究の現況とその将来に関するシンポジウム（後援） 発明会館ホール
- 44. 2.16～17 第7回原子力総合シンポジウム（共催） 国立教育会館
- 44. 4.22～24 第6回理工学における同位元素研究発表会（共催） 国立教育会館
- 44. 5. 9 鋼材使用による急速施工説明会（後援） 日本生命会議室
- 44. 6. 3～4 第7回接着研究発表会 会場不明
- 44. 8.19～22 応力測定に関する講習会（協賛） 電気大学
- 44. 9. 3～15 コンクリート用化学混和剤に関する講習会（協賛） 大阪科学技術センター外，6市
- 44. 9. 8～13 第8回宅地造成技術講習会（協賛） 発明会館，愛知県市町村会館
- 44.10. 8～19 鋼グイ講習会（後援） 社会文化会館，外5市
- 44.11.28 第10回構造の軽量化に関するシンポジウム（共催） 土木図書館講堂
- 45. 1.23～2.12 第2回コンクリート講習会（後援） 東京都，外7市
- 45. 2.14 河川災害に関するシンポジウム（後援） 発明会館
- 45. 2.12～13 第8回原子力総合シンポジウム（共催） 国立教育会館
- 45. 4. 7 第15回材料強度と破壊国内総合シンポジウム（協賛） 石川島播磨重工業
- 45. 4.16～18 第7回理工学における同位元素研究発表会（共催） 国立教育会館
- 45. 6. 4～5 第8回接着研究発表会（共催） 大阪科学技術センター
- 45. 7.27～8. 1 第9回宅地造成技術講習会（協賛） 発明会館，岡山県建設業会館
- 45.9.28～10.3 第9回宅地造成技術講習会（協賛） 発明会館，大阪府農林会館
- 45.10.16～18 第17回腐食防食討論会（共催） 鉄鋼短期大学
- 45.10.15 45.10.20 } P C くい基礎講習会（後援） 静岡市，外3市  
45.10.22 } 同上講習会 静岡市，外3市  
45.10.27 }
- 45.11.9～10 第7回災害科学総合シンポジウム（後援） 京都大学防災研究所
- 46. 1.23 流体輸送に関するシンポジウム（共催） 大阪科学技術センター
- 46. 2.2～6 橋梁の動的応答研究会（後援） 鈴鹿サーキットホテル
- 46. 2.13 河川災害に関するシンポジウム（共催） 発明会館ホール
- 46. 2.15～16 第9回原子力総合シンポジウム（共催） 国立教育会館
- 46.4.7～21 鋼構造用高力ボルトの新 JIS と施工指針説明会（協賛） 東京都，外4市
- 46. 4.18～19 第8回理工学における同位元素発表会（共催） 東京都
- 46. 5. 10 鋼構造の座屈に関するシンポジウム（共催） 東京都
- 46. 6. 2～3 第9回接着研究発表会（共催） 東京都
- 46. 7. 6・9 斜面安定工法講習会（協賛） 東京都
- 46. 7.12～13 第29回コンクリート講習会（後援） 東京都
- 46. 8.2～9.12 第10回宅地造成技術講習会（協賛） 東京都，外3市
- 46. 8.23～25 第18回腐食防食討論会（共催） 札幌市
- 46. 8.23～25 複合材料国際シンポジウム（協賛） 東京都
- 46. 9. 6～9 第3回耐風構造国際会議（共催） 東京都
- 46.10.7～28 第4回コンクリート技術講習会（後援） 東京都，外7市
- 46.10.12～15 第4回標準化全国大会（協賛） 東京都
- 46.11.8～10 第16回 FRP 総合講演会（協賛） 大阪市
- 46.11.12～18 建設用エポキシ樹脂講演会（後援） 東京都，外2市
- 46.11.24～26 鋼構造物の耐震設計に関するシンポジウム（協賛） 東京都
- 46.11.26～30 P C 構造物に強くなるための講習会（後援） 東京都，外1市
- 47. 1.17 水力学・水理学研究の最近の進歩についてのシンポジウム（共催） 東京都
- 47. 2.15～16 第10回原子力総合シンポジウム（共催） 東京都

- 47. 2.19 河川災害に関するシンポジウム(後援) 東京都
- 47. 3. 3 原子炉用プレストレストコンクリートに関する講演会(後援) 東京都
- 47. 4. 3 第17回材料強度と破壊国内シンポジウム(協賛) 東京都
- 47. 4.18~19 第9回理工学における同位元素発表会(共催) 東京都
- 47. 5.17~19 マトリックス構造解析日英シンポジウム(後援) 東京都
- 47. 5.23~25 同上シンポジウム 大阪市
- 47. 6.7~9 第10回接着研究発表会(共催) 東京都
- 47. 8.7~27 第11回宅地造成技術講習会(協賛) 東京都, 外2市
- 47. 8.23~26 応力測定に関する講習会(協賛) 東京都
- 47. 9.4~6 第5回複合材料国際シンポジウム(協賛) 東京都
- 47.10.3~6 第15回標準化全国大会(協賛) 東京都
- 47.10.2~27 第5回コンクリート技術講習会(後援) 東京都, 外8市
- 47.10.25~27 建設計画および設計のシステム化と自動化(日米合同シンポジウム)(共催) 東京都
- 47.10.28~29 第9回自然災害科学総合シンポジウム(後援) 仙台市
- 47.11.7~9 第17回 FRP 総合講習会(協賛) 東京都
- 47.11.20~24 コルゲートメタルカルバートの解説とマニュアル改訂説明講習会(後援) 東京都, 外4市
- 47.11.24~28 溶接欠陥の評価と継手強度に関するシンポジウム(協賛) 東京都, 外1市
- 48. 1.26 「水力学・水理学研究の最近の動向と混相流研究所について」シンポジウム(共催) 東京都
- 48. 2.15~16 第11回原子力総合シンポジウム(共催) 東京都
- 48. 2.17 河川災害に関するシンポジウム(後援) 東京都
- 48. 4. 4 第18回材料強度と破壊国内シンポジウム(協賛) 東京都
- 48. 4.17~18 第10回理工学における同位元素発表会(共催) 東京都
- 48. 6.13~14 第11回接着研究発表会(共催) 東京都
- 48. 8.6~12 第12回宅地造成技術講習会(協賛) 東京都, 外2市
- 48. 9.29~10.25 第6回コンクリート技術講習会(後援) 東京都, 外7市
- 48.10.2~5 第15回標準化全国大会(協賛) 東京都
- 48.10.23~25 第21回レオロジー討論会(共催) 京都市
- 48.10.29~31 第6回複合材料シンポジウム(協賛) 東京都
- 48.11.5~10 1973 有限要素法東京セミナー(共催) 東京都
- 48.11.16 第11回高分子と水に関するシンポジウム(協賛) 東京都
- 48.11.20 プラスチックコンクリートに関する研究集会(後援) 東京都
- 49. 2.18~19 第12回原子力総合シンポジウム(共催) 東京都
- 49. 2.14 河川災害に関するシンポジウム(後援) 東京都
- 49. 2.20 コンクリートの品質管理試験に関するシンポジウム 東京都
- 49. 3. 5~6 第16回高分子可能性講座(協賛) 東京都
- 49. 4. 1 第19回材料強度と破壊国内総合シンポジウム(共催) 東京都
- 49. 4.25~26 最近の接着の問題と応用に関する講習会(協賛) 大阪市
- 49. 5.22 土木調査に利用される物理探査の講習会(共催) 東京都
- 49. 6.12 溶接構造物の安全評価に関するシンポジウム(協賛) 東京都
- 49. 6.17~18 第11回理工学における同位元素研究発表会(共催) 東京都
- 49. 6.19~20 第12回接着研究発表会(共催) 大阪市
- 49.10. 1 水循環と水利用に関するシンポジウム(後援) 東京都
- 49.10.2~4 第22回レオロジー討論会(共催) 仙台市
- 49.11.20 第1回海洋工学シンポジウム(協賛) 東京都
- 50. 2. 6 河川災害シンポジウム(後援) 東京都
- 50. 2.18~19 第13回原子力総合シンポジウム(共催) 東京都
- 50. 2.25~27 コンクリート講習会(生コン)(後援) 東京都